

港湾の防災に関する研究会の議論の流れ(第二回)

1. 背景

大規模地震に対する施策の再構築

大規模地震発生の切迫性

新たな長期計画の策定

中央防災会議の動き

3. 緊急時に求められる港湾の機能

- (1) 交通ネットワーク機能
 - ①ゲートウェイ機能
 - ②バイパス機能
- (2) スペース機能
- (3) 安全確保機能

2. 大規模地震災害の事例・教訓

- (1) 阪神・淡路大震災
- (2) 北海道南西沖地震
- (3) 日本海中部地震

4. 大規模地震発生後に講じた施策と評価

- ①交通ネットワーク機能 日本海中部地震、阪神・淡路大震災
- ②スペース機能 阪神・淡路大震災
- ③安全確保機能 北海道南西沖地震、東海地震関連

5. 被害想定

静岡県の例

- (1) 想定被害の概要
- (2) 交通対応シナリオ
- (3) ガレキ等の処理対応シナリオ

6. 防災関係の諸計画等

- (1) 国土交通省防災業務計画
- (2) 東海地震施策大綱

7. 課題の整理

被災後、港湾機能を早期に発現させることが課題
→このためのソフト・ハード一体となった施策が必要

8. 必要な施策案

- I 港湾機能の早期発現
 - ①港湾機能の早期発現のための情報収集・伝達の迅速化
 - ②港湾機能の早期発現のための事前の対応
- II 港湾機能の発揮
 - ①交通ネットワーク機能の発揮のため、情報通信網等を活用
 - ②交通ネットワーク機能の発揮のため、既存ストックを有効活用
 - ③スペース機能の発揮
 - ④安全確保機能の発揮のため、既存ストックを有効活用

9. 研究会提言の素案

- 目次案
- I. 港湾防災の現状と分析
 - II. 現状の課題と施策の方向性
 - III. 提言

提言のとりまとめ